

感染症発生動向調査 週間コメント

《 疾病別 推移グラフ 》 《 月別 集計コメント 》

第44週 (R4.10.31-R4.11.9)

■今週のトピックス

▽ 今週(2022年第44週:10/31-11/6)は休日を1日含みます。インフルエンザ報告は7人で、少数ながら毎週報告が続きます。RSウイルス感染症は多発が続きますが減少傾向です。感染性胃腸炎は横這いで、ノロウイルスの報告が少数ながら続いています。手足口病・ヘルパンギーナも発生が続きますが減少傾向です。ヒトメタニューモウイルス感染症も多くの報告が続いています。コロナの報告は続き、定点からの任意の報告をCOVID-19として記載しています。福岡県の警報はR4.10/5ですべて解除されていますが増加傾向です。

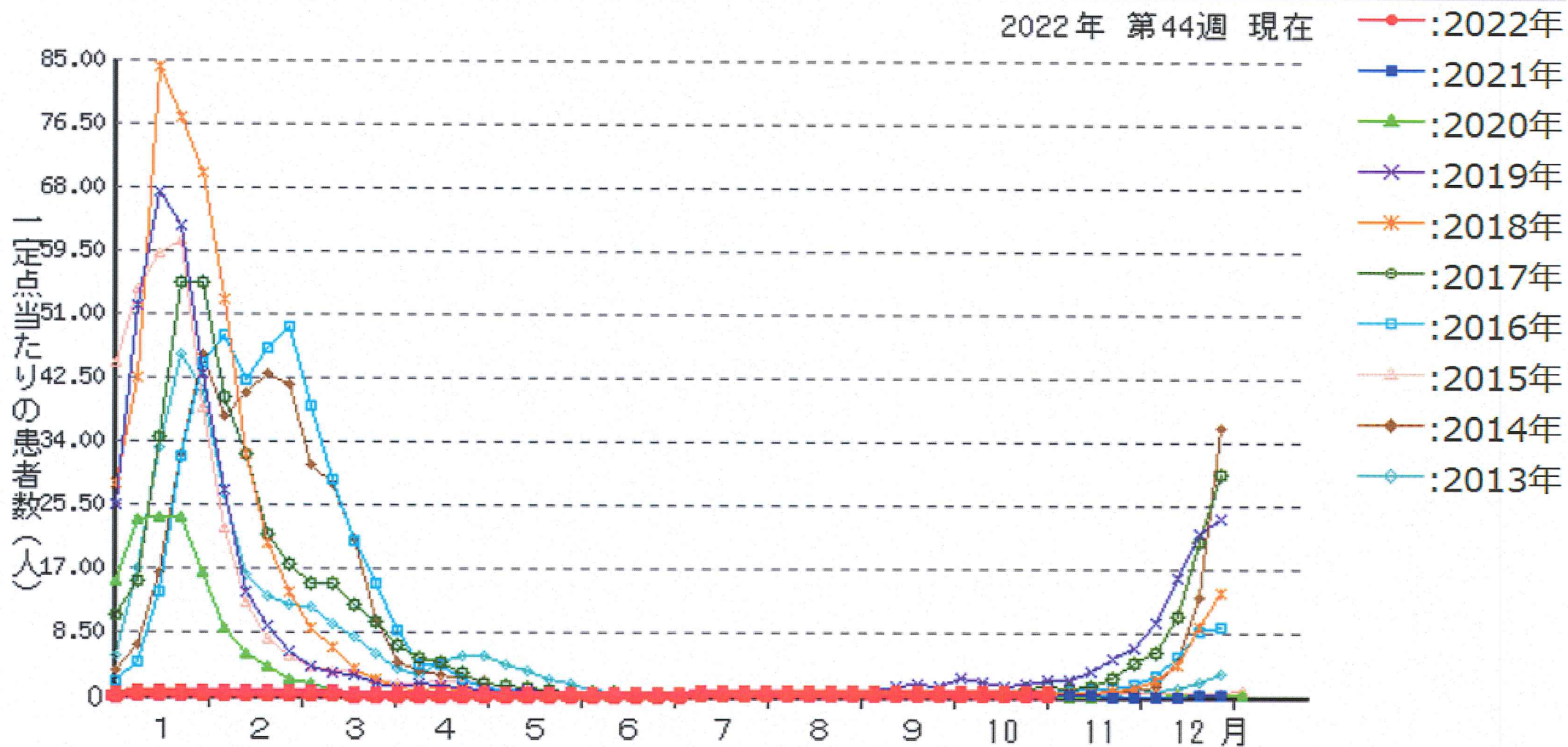
病 名	定点報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	7	+6	北九州5、筑豊1	0.04	0.03
RSウイルス感染症	130	87%	福岡96、北九州16	1.08	0.94
咽頭結膜熱	17	-7	福岡9、筑後7	0.14	0.07
A群溶連菌咽頭炎	120	103%	福岡94、筑後22	1.00	0.45
感染性胃腸炎	418	99%	福岡183、北九州101	3.48	2.37
水 痘	4	-1	福岡3、筑後1	0.03	0.09
手足口病	135	83%	福岡60、北九州38	1.13	0.92
伝染性紅斑	0	-2		0.00	0.01
突発性発しん	51	102%	福岡23、筑後13	0.43	0.25
ヘルパンギーナ	118	91%	福岡55、筑後46	0.98	0.24
流行性耳下腺炎	1	-2	福岡1	0.01	0.03
川崎病(MCLS)	3	±0	筑豊1、筑後1	0.03	
マイコプラズマ肺炎	2	±0	福岡2	0.02	0.02
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	
細菌性髄膜炎	0	-1		0.00	0.02
無菌性髄膜炎	1	+1	筑後1	0.01	0.01
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	
流行性角結膜炎	6	-4	筑豊3、福岡2	0.23	0.00
性器クラミジア感染症	23	-9	北九州9、筑後7	0.62	0.21
性器ヘルペス	4	-6	北九州2、福岡2	0.11	
尖圭コンジローマ	8	+6	福岡5、筑豊1	0.22	
淋菌感染症	8	-4	筑後6、北九州2	0.22	

※ 全数報告疾病 43週(定点報告数は44週分)

病 名	定点報告数	全数報告数(累計)	主な報告地区等	全国報告数(累計)
百日咳	0	0(10)		9(394)
風しん	0	0(1)		0(11)
麻疹	0	0(0)		0(6)
梅毒	5	12(428)	福岡9、北九州2	169(10465)

■インフルエンザ（福岡県全域）

2022年 第44週 現在



〈新型コロナワクチン接種〉
オミクロン株に対応した
2価ワクチンの接種が開始されました。

接種可能な間隔が
3か月になりました！
ぜひ、
年内の接種をご検討ください。



接種の対象と使用するワクチン



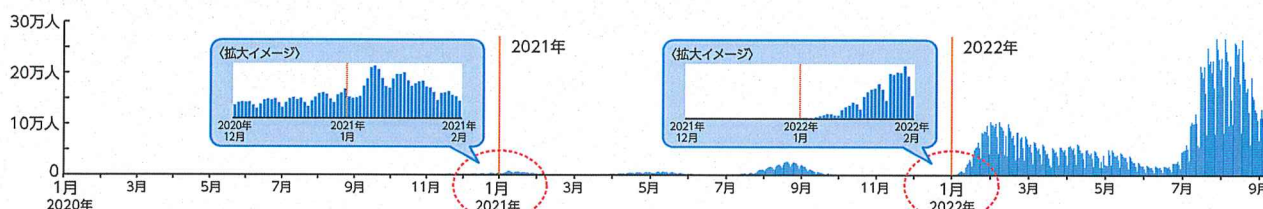
- 新型コロナの従来株とオミクロン株に対応したワクチン（「オミクロン株対応2価ワクチン」）の接種は、**初回接種（1・2回目接種）を完了した12歳以上の全ての方が対象で、一人1回接種できます。**
- 1・2回目接種を完了した12歳以上で最終接種から3か月以上（※）経過している方は、接種可能になりました。
（※）5か月から3か月に短縮されました。
- 例えば、9月15日に従来型ワクチンを接種した方は、12月15日からオミクロン株対応2価ワクチンを接種できます。
- 詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

〈オミクロン株対応2価ワクチンの種類〉	1・2回目接種対象者	3回目以降の接種対象者		
ファイザー社ワクチン 【BA.1対応型／BA.4-5対応型】	×（使用不可）	12歳以上	12歳以上 ○	18歳以上 ○
モデルナ社ワクチン 【BA.1対応型】	×（使用不可）	18歳以上	×	○

（※）2022年10月時点では、オミクロン株対応2価ワクチンは、11歳以下は接種対象となりません。

これまで2年間、年末年始に新型コロナは流行しています。**2022年の年末まで**に、重症化リスクの高い高齢者はもとより、**若い方にも**オミクロン株対応2価ワクチンによる接種を完了するようおすすめします。

〈日本国内の新規感染者数（1日ごと）〉



出典：厚生労働省ホームページ「国内の発生状況」をもとに作成

〈 諸外国において推奨されている、オミクロン株対応ワクチンの前回の接種からの接種間隔 〉

出典:厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料 より

国	推奨の発表機関(※)	推奨の発表日	前回の接種からの接種間隔
日本	厚生科学審議会	2022/10/20	3か月以上
英国	JCVI	2022/8/15	3か月以上
米国	CDC/FDA	2022/8/31	2か月以上
カナダ	NACI	2022/9/1	3か月以上
イスラエル	保健省	2022/9/20	3か月以上
フランス	保健省	2022/10/6	3か月以上
ドイツ	STIKO	2022/10/6	3か月以上

(※) JCVI: 予防接種・ワクチン合同委員会
NACI: 予防接種に関する諮問委員会

CDC: 疾病予防管理センター
STIKO: 予防接種常設委員会

FDA: 食品医薬品局

(2022年10月17日時点)

オミクロン株対応2価ワクチンの種類と効果

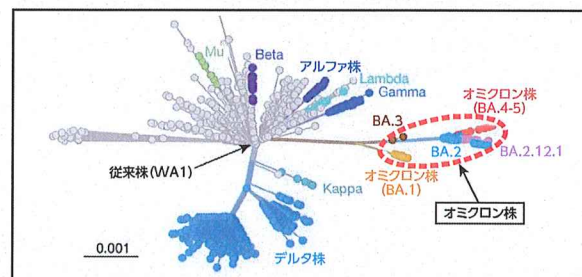
2種類の2価ワクチン(BA.1対応型／BA.4-5対応型)が使用可能ですが、いずれも従来型ワクチン(※)を上回る効果が期待されます。

(※)新型コロナウイルスの従来株に対応した1価ワクチン

2価ワクチンは、従来株の成分に加え、オミクロン株の成分が含まれています。オミクロン株の成分に2つの種類(BA.1とBA.4-5)があるため、2種類のワクチンがあります。その効果は以下の通りです。

- BA.1、BA.4-5は、いずれもオミクロン株の種類(亜系統)です(右図参照)。そのため、BA.1 対応型であっても、BA.4-5 対応型であっても、現在流行の中心であるオミクロン株に対しては、1価の従来型ワクチンを上回る効果が期待されています。
- また、BA.1 対応型であっても、BA.4-5 対応型であっても、従来株とオミクロン株の2種類の成分があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられます。

〈 新型コロナウイルスの変異株の枝分かれ(系統樹) 〉



(※) 出典をもとに改変

出典: Wang, Q., Guo, Y., Iketani, S. et al. Antibody evasion by SARS-CoV-2 Omicron subvariants BA.2.12.1, BA.4 and BA.5. Nature 608, 603-608 (2022).

オミクロン株対応2価ワクチンの安全性

ファイザー社及びモデルナ社の2価ワクチンの薬事承認において、どちらのワクチンも従来型ワクチンとおおむね同様の症状が見られました。

〈 接種後7日間に現れた症状 〉

出典: 特例承認に係る報告書より改編

発現割合	症 状	
	ファイザー社	モデルナ社
50%以上	注射部位疼痛	注射部位疼痛、疲労
10~50%	疲労、筋肉痛、頭痛、悪寒、関節痛	頭痛、筋肉痛、関節痛、リンパ節症、悪寒、悪心・嘔吐
1~10%	下痢、発赤、腫脹、発熱、嘔吐	紅斑・発赤、腫脹・硬結、発熱

◎ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。

◎予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村等にご相談ください。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索



Q **新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンは、同時に接種することはできますか。**

A **新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンとの同時接種は可能です。ただし、インフルエンザワクチン以外のワクチンは、新型コロナワクチンと同時に接種できません。互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種できます。**

新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンとの同時接種については、単独で接種した場合と比較して、有効性及び安全性が劣らないとの報告があること等を踏まえ、令和4年7月22日開催の審議会において議論された結果、実施が可能となりました。

一方、新型コロナワクチンとインフルエンザワクチン以外のワクチンの同時接種については、現時点で安全性に関する十分な知見が得られていないため、実施できません。互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種できます。特に子どもの場合は、定期接種でワクチンを接種することもあるため、予め計画を立てた上での予約をお願いします。

（例）4月1日に新型コロナワクチンを接種した場合、他のワクチンを接種できるのは、4月15日（2週間後の同じ曜日の日）以降になります。

なお、創傷時の破傷風トキソイド等、緊急性を要するものに関しては、例外として2週間を空けずに接種することが可能です。

（参考資料）

新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種の有効性・安全性 （第33回 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料より抜粋）